ルクシアタフィナーレ（一部延長決定！）

今月1日から、福山駅周辺で繰り広げられて来たイルミネーションの祭典「ルクシアタふくやま」が25日でフィナーレ。

22日と23日は、中央公園でピンクの電飾が彩るテントの下、飲食屋台やデニムや木工のワークショップが並ぶクリスマスマーケットが設けられた。福山城の石垣下から国道2号あたりまで、メッセージ付ペットボトルキャンドル1400個も並んだ。赤松絵里子さん（東川口町33歳）は「中央公園から駅前へ歩いてみます。光の道が続き、広がっていくといいですね」と話した。

今年のフィナーレを華やかに彩ったのは、大道芸。中央公園と駅前、美術館前などで一輪車での曲芸や、灯のともる輪投げなどを披露し、電飾にきらめくドレスや、約3mの光る風船のような扮装でのパフォーマンスもあった。藤村レナさん（加茂町40歳）は「福山でこんなに素敵な大道芸とイルミのコラボが見られるなんてステキ。ぜひ続けて欲しい」と声援を送っていた。

【点灯を一部延長】

福山駅前広場のツリーと駅前大通りの樹木は来年1月14日（祝）まで、駅前広場のコンテナは1月31日（木）まで。

二代福山藩主 勝俊公の正室 350年以上を経て寄り添う

北吉津町

東京で確認され 備後 妙政寺で納骨

備後福山藩二代藩主、水野美作守勝俊公の正室（九鬼長門守息女）の遺骨の所在がわかり、勝俊公の菩提寺である備後長久山妙政寺（北吉津町／二十九世 宇根海静住職）で22日、勝俊公の隣に納められた。

正室の墓所は、市史跡指定の「水野美作守勝俊公御廟所」の一番奥、勝俊公のすぐ隣に準備された。

水野家第二十代当主の水野勝之さんの三女・節子さんによれば「5年ほど前、祖母の納骨の折に、墓所内う骨箱が見つかり、勝俊公の正室の〈長生院殿花菴周寶清大姉〉とわかりました」。

勝俊公が天寿を全うした7年後の1662年（寛文2年）に亡くなり、江戸深川霊岸関東大震災により寺院が倒壊後、水野家の墓地がある東京多摩霊園に納められたと考えられている。

長生院の名が生前に出家したときのものか、亡くなったときの戒名なのか定かではないそうだが、歴史指導員として刈谷市歴史博物館に関わるところでは、「生前は、お若さんと呼ばれていたのではないかと思われます」と推論する。「福山に住んだことは無い方のようですが、ご主人とご一緒にと思いました」。

勝俊公菩提寺である妙政寺へは、一昨年6月、同霊園から、勝之さん、節子さん、宇根住職の手で「お連れした」という。

市史跡内に墓石を建立する許可がおりたのは、今年の夏のこと。納骨を執り行ったこの日は、節子さんはじめ、勝成公報恩会の10人が立ち会い人となり、住職が円柱形の骨壺の蓋をとって皆で確認した後、新たに

備後絣×デニム 高校生がファッションショー

神辺町

＃福山はデニムの産地！

10月の福山市高校生議会に向けて〝福山のいいものの発信〟を議論していた第3委員会（3校6人）は、若い世代でデニムファッションショーをして、その発展のもととなった備後絣の魅力を伝えようと提案。それが22日、現実のものになった。

フジグラン神辺で開かれた「高校生発FUJI GRANDファッションショー」に登場したのは、同委員会をはじめとする高校生12人など26人。

〝＃福山はデニムの産地〟とハッシュタグを付けて拡散を願ったテーマを背に、インディゴブルーのランウェイを、備後絣のワンピースや黄金色のバラの刺しゅうをあしらったデニムドレス、デニムコートやデニムスカートを活かしたカジュアルな着こなしなどを披露しながら歩いた。

高校生の衣装は備後絣音頭をつなぐ会や市内のアパレル企業の協力を得て集めた。フィナーレでは、〝いい藍〟にかけて111個のデニムの折りばらを観客にプレゼントした。

ショーを発案した松坂信吾さん（近大附属福山高2年）は、自前のデニムジャンパーにコートと絣のはっぴを重ね着して登場。「（備後絣の産地）新市町で生まれ育った僕にとっては、備後絣やデニムが福山の伝統工芸品というのは当たり前だけど、まだ知らない人が多い。新しい可能性を示せたと思う」と笑顔で話した。ショーを楽しんだ松川美和さん（新涯町・44歳）は「洋服になった備後絣を初めて見た。若い人がおしゃれに着こなしていて格好よかった」と話していた。

竹あかり&とんどライトアップ 福山城あかりまつり幻想的

丸之内

1/5福まきイベント開催

22日、「福山城あかりまつり」が、天守閣前広場などで始まった。22時の閉門直前まで楽しめ、入場無料。

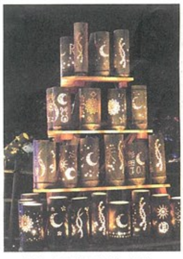
福山商工会議所青年部が主催して3回目の今年は、ワークショップなどで穴を開けた280本の竹あかりが、ブルーのイルミネーションと相まって見る人を幻想的な世界に誘う。

福山駅の新幹線ホームなどからも見えるようにと湯殿のすぐ下にも設置したほか、桜丘小学校6年生が手掛けた竹あかりも積み重ねるように置かれ、やさしい光を放っている。訪れた門田千春さん（熊野小4年）は「福山城には何回も来たけど夜は初めて。竹あかりがきれい」と眺めていた。

地域のとんど7基（手城・旭・西深津・東深津・久松台・蔵王三区）も天守前でライトアップされ、凛とした雰囲気を醸し出している。

＊

最終日の来年1月5日（土）は日本一早い豆まき「福」まきと書道パフォーマンスや、音楽ライブが13時半～16時。豆徳本店協賛による福まきは14時～と15時～の2回（約20分）で1万個をまく。縁起物の松竹梅をイメージした抹茶ミルク・竹炭・梅干や、金粉豆の他に豆の字を横にしてKOI（恋）と読ませるKOIのお豆守、にこにこお豆守の〝アタリ〟もある。



桜丘小6年の竹あかり

※7面「顔」は、あかりまつり実行委員長のインタビュー

福山まちかど思い出写真展 しんぐうカフェで開催中

西町

西町のリムふくやま2階にある「しんぐうカフェ」で、昭和40年代に撮影された作品を中心に「福山まちかど思い出写真展」が開かれている。

市内在住の書家・高渕和恵さんが6年前、空き家になっていた生家を整理していたところ、段ボール箱の中に、大量の古い写真を見つけたという。

高渕さんの亡き祖父・藤田竹男さんが趣味で撮りためていた地元福山の風景写真。郷土史研究家の東誠山さん（神辺町）に相談し、多くの人に見てもらうことにした。

1966年（昭和41年）の福山城落成式前日の、テントが張られた様子をはじめ、二上りおどりやとんどなど、120枚がカフェの壁に展示されている。来年1月31日（木）まで。

水呑交流館に新消防器具庫完成

水呑町

福山市消防団水呑分団第二班と第三班の新しい消防器具庫の落成式が、16日行なわれた。

今年5月に水呑交流館が完成したことに併せ、町内2ヶ所にあった器具庫を1ヶ所に集約し、同館敷地内に新築。消防器具庫は敷地面積215㎡、床面積94・4㎡。消防車両2台を収容、詰所を併設し、電動式のホース乾燥柱もある。

式には分団員や、町内会長をはじめ地域の関係者ら約50人が出席した。山崎元分団長（64歳）は「より一層

塩崎神社のお守りがこんなにいっぱい！ どれが一番人気か当ててね